

ド～なる、ド～する？信越線

22日、妙高高原メッセでシンポジウム



熱心に報告を聞く参加者

10月22日、妙高市の妙高高原メッセで、「新幹線開業で：ド～なる、ド～する？信越線 妙高シンポジウム」が開かれました。妙高と信越線を考える会と在来線を守る三市連絡会が共催したもので、100人近くの市民らが参加しました。

主催者を代表してのあいさつで、岡山絃一郎元妙高高原町長は、「信越線は妙高高原にとって死活の問題だ」と強調し

ました。また来賓の佐藤光雄妙高市議会交通特別委員長は、「議会も行政も一致して存続に向けて活動していく」と述べました。事務局からは、「考える会」に、商工会長、区長、現・前市議、元町議など19人の賛同が寄せられていると報告がありました。

最初の報告に立った飯田耕平高田農業高校教諭は、「鉄道を利用して高い高校生の立場で、信越線・北陸線・ほくほく線を考えてみよう」と提起し、上越地域の全17校の高校生の鉄道利用実態調査の結果を報告しました。この調査で、在籍高校生8310名の内3694名44・5%の生徒が鉄道を利用して、70%を超える高校もあり、まさに鉄道が高校生の通学になくならないものになっっていることが浮き彫りになりました。「もしも、鉄道がなくなったらどうする」との問いに、「学校に行けないかもしれない」との不安も紹介されました。

川原敏次三市連絡会事務局長は、「在来線を守れ！地域を守れ！住民を守れ！」と立ち上がった糸魚川市の「大糸線・北陸線を守る会」の取り組みについて報告しました。その中で川原氏は、町内

会長や区長、商工会、現・元議員など多彩な人たちが、「地域住民の足である公共交通機関を確立し、大糸線と北陸線の存続に向けた住民運動を展開し、大糸線と北陸線を守ること」の一点で結集して活動している状況を詳細に報告。併せて、国や新潟県でも新たな動きが出てきていることから、沿線住民が立ち上がり団結して世論を喚起していこうと訴えました。

フリー討論でも多くの意見が出されました。PTAの役員は、「新井高校に通う息子の交通費はJRだけなので4000円ほどだが、新井駅でバスに乗り換えて板倉区の有恒高校に通う娘はさらに1万円かかる。今でも財政的に厳しいが、鉄道がなくなると全部バスになれば負担でなくなる。どうしても鉄道を残して」と訴えていました。

女性の参加者は、「難しかったけれど、勉強になりました。もともとみんなに知らせていく必要がありますね。」と感想を

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2007年10月28日 No.163
発行・杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832